

「思いやりと実践力のある子どもを育てる社会奉仕活動」プロジェクト

取組概要

「思いやりと実践力のある子どもを育てる社会奉仕活動」プロジェクトとして、全校児童が、青少年赤十字活動を中心に、様々なボランティア活動に取り組みました。保護者や地域、施設の方々等からほめられ、思いやりの心や実践力を伸ばす取組となりました。

1 学校の課題を探り

- 全校児童 32学級（890人）
- 職員数 44名
- 本校の児童は、開校当初から、青少年赤十字活動に取り組み、様々な成果を上げてきましたが、「気づき、考え、行動する」をモットーとした取組が校内に限られていたため、学ぶ意欲や自尊感情があまり高まっていないことが課題となっていました。そこで、青少年赤十字活動を拡充することにより、それらの課題を改善することとしました。



学校の様子（挨拶運動）

2 目標を立て

- ☆ 各学年で青少年赤十字活動のめあてを立て、それに基づいて、日常的に様々な取組を行うようにする。
- ☆ これまで行ってきた定期的な取組等について、青少年赤十字委員会の児童が中心となって、活動の意義、積極的な参加と協力を呼びかけるようにする。
- ☆ 保護者、地域の方々やボランティア活動を行い、家庭・地域と連携・協力して取り組む体制を構築する。



義援金の寄付

3 総えて、ほめてみると

【目標設定】

(1) 年間の学年のめあてを設定し、そのために取り組む活動の決定

- 6月に行った青少年赤十字加盟更新式の中で、これからの取組への意識を高めました。
- ・ 日本赤十字社福岡県支部の方から、東日本大震災で、世界中の多くの方が復興支援に関わったことについて話を頂き、ボランティア活動の大切さについて理解しました。
 - ・ これまで、集めた義援金（ネパール地震被災者支援の募金活動で集めたお金）を渡し、自分達の活動が人々のために役立っているという実感をもちました。
 - ・ 全校児童で、本年度の取組に向けて、誓いの唱和をすると共に、各学年の取組のめあての発表を行いました。みんな真剣な表情で式に参加し、めあての発表の時には、うなずきながら聞く姿がどの学年でも見られました。
 - ・ 各学級では、学年のめあてを確認しながら、自分たちの学級や個人で取り組む具体的なことを決めていきました。

- 第1学年 ともだちとたすけあいなかよくしよう
- 第2学年 おちているごみをすんでひろおう
- 第3学年 人の役に立つことをしよう
- 第4学年 自分にできることを進んでしよう
- 第5学年 自分から進んで人の役に立つように日々努力しよう
- 第6学年 一人一人が人のために何かできるか考えよう

各学年のめあて（一部）



青少年赤十字加盟更新式

【挑む】

(2) 様々な取組への挑戦

毎月1回の「きらめき清掃」では、その月の担当学年が、老人会の方々と共に運動場や体育館周りの清掃を一生懸命行いました。老人会の方々には、子ども達との交流を楽しみにしておられ、子ども達と話をされながら学校をきれいにしていただきました。子ども達は、老人会の方々から、元気に挨拶する姿や熱心に清掃するようすをほめていただき、自分たちで行った活動に満足感をもつことができました。



きらめき清掃の様子

全校による月1回の「アルミ缶登校」では、多くの子ども達が、アルミ缶やペットボトル、ペットボトルのキャップを学校に持って来て、青少年赤十字委員が集めていきました。これらが、車椅子の贈呈につながることを知っているの、以前より積極的、協力的になっています。



アルミ缶登校の様子

朝の「挨拶運動」では、担当の子ども達だけでなく、グループや学級での参加があり、「立ち止まって、相手より先に」を基本に、意欲的に挨拶を行いました。一緒に参加した教師が、終了後に子ども達を集めて、参加への意欲と気持ちのよい挨拶を賞賛したことで、日頃の挨拶も一段とよくなり、挨拶のよさを実感しています。

【ほめる】

(3) 施設の方々や教師等からの賞賛の場を設定

「車椅子贈呈」の当日は、子ども達は、落ち着かない様子でしたが、電車で施設まで行き、施設で車椅子を贈呈すると、ほっとしたように安堵の表情を浮かべました。施設の方々からお礼を言われるとにっこりし、「車椅子を贈呈してよかった」「今まで車椅子を贈呈するために頑張ってきてよかった」等と語り、ボランティア活動の素晴らしさを実感したようでした。



施設への車椅子贈呈式

また、教師からも、年間の取組、その努力等についてほめられ、笑顔を浮かべていました。

4 こんな成果があった！

- SRT調査結果から、学ぶ意欲、自尊感情のポイントが上がりました。
 - 【学ぶ意欲】4年男子2ポイント、女子1ポイント、5年女子2ポイント、6年男子2ポイント
 - 【自尊感情】4年女子1ポイント、5年女子1ポイント、6年男子1ポイント
- 児童が自分で決めた目標に向かって挑み、他の学年の児童や家庭・地域の方々からほめられたことによって、ボランティア活動に対して以前より意欲的に取り組むようになり、また、授業や委員会活動でも、積極的に学習したり自治的に活動したりするようになりました。

5 ココがポイント！

- ① 事前の説明と意欲付け、事後の賞賛が大切！
取組の意義を詳しく話し、意欲付けすることで、子ども達は一生懸命活動しました。また、事後に賞賛することで、自分の行動、考えに自信をもちました。
- ② 適時に人と交流する適切な活動の設定が効果的！
交流することで活動の意欲は高まり、見守られていることで、自信をもって行動し、自己有能感も高まりました。
- ③ 教職員の共通理解と意欲が大切！
教職員が取組とそのねらいについて共通理解することで、取組が充実しました。